

議長記者会見（第50回）会見録

日時：令和6年10月1日（火）

午後3時15分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室

会見を行う善田議長（左）と室谷副議長（右）



今定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

最初に、奥能登での豪雨災害についてであります。

令和6年能登半島地震の発生からわずか8か月余りしか経過していない中、去る9月21日に線状降水帯が発生し、県内で初めて大雨特別警報が発表されるなど、記録的な大雨となり、輪島市をはじめ、能登半島地震で甚大な被害を受けた地域において、更なる被害が生じました。

能登半島地震からの復旧・復興に向けて取り組む中での豪雨災害であり、亡くなられた方々にお悔みを申し上げるとともに、被災された皆様方に対して、心からお見舞いを申し上げます。また、復旧に尽力いただいておりますボランティアや関係者の皆様方に心より敬意を表します。

我々議会としても、被災者の皆様方の生活再建支援と、災害復旧に向けた施策がしっかりと実行できるよう、執行部と連携を図りながら、全力で取り組んでいく所存です。

次に、岸田首相の退任と、新首相に指名された石破氏についてであります。

岸田首相には、能登半島地震の発生以降、4回も被災地に足を運んでいただき、発生直後から、多くの政府職員の派遣や、6回にわたる予備費使用の決定、復興基金の規模に格別のご配慮をいただくなど、人的にも、財政的にも、様々な支援をいただいたことに感謝申し上げます。

新たな首相に指名された石破氏には、能登半島地震からの復旧・復興の取り組みを加速させ、能登の創造的復興の実現に向けて、より一層の力強いご支援をいただくとともに、北陸新幹線の大阪延伸をはじめとした交流基盤の整備、海外誘客の推進など、地方創生を大きく前進させていただくことを期待しています。

次に、今定例会を振り返ってであります。

今議会では、能登半島地震からの復旧・復興に関して、活発な論戦が繰り広げられ、公費解体・自費解体の加速化と住まいの確保、農林水産業など生業の再建支援、道路や農地などの復旧、能登への観光誘客などについて、多くの議員から、様々な提案や質疑がなされました。

議会としても、執行部とともに、迅速な復旧、そして能登の創造的復興の実現に向けて、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

また、今議会においては、先月21日に発生した奥能登での豪雨災害に関して、浸水した仮設住宅の入居者への対応や、罹災証明、市町への応援職員の派遣、復旧・復興に向けた予算措置などについて、多くの質問がなされました。

加えて、今議会においては、奥能登公立4病院の機能強化や、県消防学校の移転先の再検討、社会福祉会館の建て替えなど、県民の安全・安心の確保に関して、活発な議論が行われました。

議会としても、県民が健やかに安心して暮らせる社会の構築につなげていくことができるよう、今後も執行部としっかり議論をしてまいりたいと思います。

そのほかにも、今議会では、二地域居住の推進や、トキ放鳥、食文化イベントの展開、能登駅伝の復活、子どもの権利に関する条例など、県政が直面する多くの課題に関する質疑がなされました。

今後とも議会として、こうした多方面の多くの課題に対して、執行部と丁寧に議論を行ってまいりたいと思います。

執行部においては、今定例会での議論を踏まえた上で、施策の実行に取り組んでいただきたいと思ひます。

次に、今定例会中に可決された意見書についてであります。 「意見書等調整会議」におきまして、調整等された結果、各会派から提案のあった7件の意見書のうち、「ひきこもり支援に関する法整備を求める意見書」など3件が可決されました。

可決された意見書3件については、議会として国へ要望するものであり、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

次に、「ふれあい親子県議会教室」の結果報告についてであります。

議会の広報広聴活動の一環として、平成26年度から開催し、大変好評を得ております「ふれあい親子県議会教室」ですが、今回も、募集定員を上回る多くの方に応募いただき、8月7日、8日に開催し、2日間で計69組の親子に参加いただきました。

参加された皆さんには、とても好評であったと聞いており、今後も、県議会をより身近に感じてもらえればと思っております。

次に、県内スポーツ関係者の活躍についてであります。大リーグの大谷翔平選手が、史上初の記録となる、50本塁打、50盗塁のフィフティ・フィフティを超える活躍を見せるなど、スポーツ界全体が大きく盛り上がる中、本県スポーツ界もめざましい活躍がありました。

パリオリンピックでは本県ゆかりの8選手が出場し、残念ながら、メダル獲得には至らなかつたものの、いずれの選手も持てる力を十分発揮されました。

また、角界においても、津幡町出身の大の里関が、9月の秋場所において2度目の幕内最高優勝を果たし、大関昇進が決定いたしました。昨年5月の初土俵からわずか9場所での大関昇進は、昭和以降最速の記録であり、9月場所での二度目の幕内最高優勝とともに、県民に明るい話題を届け、元気を与えてくれました。更なる高みを目指して、今後ますます活躍されることを大いに期待しています。

最後になりますが、本年3月16日に、50年来の悲願でありました北陸新幹線の県内全線開業が実現してから半年が経過しました。

東京からのアクセスが向上したことで、北陸新幹線沿線の金沢市や小松市の商業地では基準地価の上昇がみられ、また、加賀温泉郷では関東やインバウンドの宿泊客が増加しております。

北陸新幹線の整備効果を最大限発揮するためには、何よりも一日も早い大阪までの全線開業の実現が必要不可欠であり、引き続き、早期の全線整備の実現に向け、政府・与党に働きかけてまいりたいと考えております。

私からは以上であります。

<質疑応答>

記者

能登半島地震の被災地では、大雨により更なる被害が発生していますが、議会としてどのようなことをお考えでしょうか。

善田議長

被災地では、先月の豪雨により甚大な被害が発生しており、今後も、各議員が被災地の状況をつぶさに執行部に伝え、復旧・復興を後押しして行ってほしいと思っています。

記者

今議会では、奥能登豪雨に関して予算措置が必要といった話も出ていましたが、どのようにお考えでしょうか。

善田議長

馳知事に今朝お会いした時にも、12月議会までに必要な予算を措置していきたいと仰っていたので、そうなるのではないかと考えています。

記者

今日、新たに石破首相が誕生するということで、石破首相への期待をお聞かせいただけないでしょうか。

善田議長

石破首相に関しましては、総裁選の時に防災省の創設といったことを提唱しておりましたので、私といたしましても、自分は震災復旧復興議長と言っておりますので、今回の豪雨災害を含めて、石破首相には、能登半島地震の被災地の復旧・復興を加速させてほしいと思いますし、能登の創造的復興に向けて、より一層のお力添えをいただきたいと思っています。

あと、石破首相は初代の地方創生担当大臣を務めておりますので、北陸新幹線の大阪延伸をはじめとした交流基盤の整備や、文化芸術の振興、海外誘客の推進など、地方創生を大きく前進させていただくことを今後期待しています。

以 上